

# 会報

# うでまくり



F J P

福島県女性経営者プラザ

## フクシマの一大事ぼつ発 F J Pで出発です



福島県女性経営者プラザ

会長 三田 公美子

思い出すだけで身ぶるいします。三月十一日、マグニチュード九の大地震に巨大津波。福島県にはさらに東京電力第一福島原発の、あつてはならない事故と放射能飛散……まったく何ていうコトでしょう。

F J Pにとつても、川崎会長と富澤会員の避難という悲しい事態となり、ゆうに半年を経過した今でも、その収束はいつになるのか、全く予断を許しません。唯一はつきりしたことは、政治の無能さ。これだけの大災害にあつても、よく耐え、立ち上がろうとする

国民とくらべると、政治家も官僚もいかに無責任でひどいか、言うまでもありません。あの中国でさえ、日本人の心ばえを絶賛しているそうです。

東京オリンピック以来の経済大国など所詮幻影だったと思うしかない。結局、ひとり一人が、新しい暮らし方や新しい仕事の仕方をさぐりあて、確立してゆくしかないのだと思います。

二十一世紀は女性の時代といわれてきたのは、こういうことだったのです。過去の成功体験などかなぐり捨てて、もう一度やり直すしかないのですね。まさに、自立、民主、公開……ほんとうの民主主義をこんどこそひとり一人が実践してゆきましょう。

### ◆ F J Pの目的 ◆

- ① 女性経営者としての資質向上
- ② 次の女性たちのための風土づくり
- ③ 共同事業の開発
- ④ 地域・社会への貢献

まず、足もとの第一歩から……。今やF J Pの出番の時が来ました。むずかしいことはともかく、一日一日を全力で過ごすこと。そうすれば福島は必ず復興します。がんばりましょう。

### ごちそうふくしま満喫フェア出店

11月5日(土) 6日(日)、福島駅前通りで行われたフェアにF J Pも参加・出店しました。

大震災や放射能汚染で甚大な被害を受けている福島県の食の力を全国、全世界へ発信しようと県内食産業の総力を上げての食の祭典。

日曜日は冷たい雨にも係わらず大勢の人に来ていただき、風船アートや輪投げ、生き生きとした笑顔を見せた子ども達、この環境下に子ども達が福島に住み、そして喜んでくれた事が嬉しく、へこたれずに地道に復興に立ち向かう勇姿と誇りを見せたF J Pの会員でした。  
(写真は四面へ)

### ● うでまくりとは

古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのがある。天気の良い朝にパラパラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない……という意味。F J P、女の腕まくりの真価はこれから！という意味も

## 前期活動報告

平成23年度定例会

- 5・24 定時総会・記念講演会  
《郡山市・はまつ》  
「私の世界戦略」  
講師 末廣酒造(株)  
代表取締役 新城猪之吉 様
- 6・21 定例会《郡山市 す呉六》  
これからのボランティア  
御用聞き屋  
代表 遠藤正二様  
(有)ゼスト  
代表取締役 佐藤大輔様
- 7・5 定例会・講演会  
《福島市・茶寮おりおり》  
福島医科大学 精神科教授  
丹羽真一先生
- 8・23 公開デイスカッション  
《福島市・エルテイ》  
福島復興に一步踏み出せ  
定例会・会員に聞く  
《郡山市 宴庭 燦》  
福田澄子、長沢美起子  
鈴木由利佳 会員
- 11・5、6 ごちそうふくしま  
満喫フェア2011出店



浅草の野菜売り!

(郡山市) 福田 澄子



ニューオー  
ンズ・ジャズ  
の浅草おかみ  
さん会、富永  
照子会長のご

縁もあり、ささやかな福島支援もあつて、会津の野菜や米を持って、浅草のイベントに三回ほど出店しました。

三田会長はこだわりの人なのでこだわりの野菜や米を売ろうとします。品質はよいのですが、他店とくらべるとどうしても高く、売れません。大体が富永おかみの助けを得て、それも片つ

ばしから押しつけて、「三つで千円」など勝手に値決めされて、何とかかっこうがづく有様です。

おかげで三田会長は富永おかみに六ヶ月の見習いを命じられ、「商売人の根性をたたき直してやる!」とまでいわれています。

友情出演とはいえ、余り売れないと私も肩身が狭く、一緒にののしられています。昔、銀座の花売り娘という歌があつたなあ、などと思いつつ、自ら浅草の野菜売りババア、と自嘲している今日この頃です。

「激震」

澤上 春江



「激震」全  
てが崩壊。三  
月十一日、午  
後二時四十六  
分。事務所の  
時計の針は、その時刻を指したままです。

そして見た事のない悲惨な光景。地震発生から時間が経つにつれ分かって来る被害の大きさ。「燦」は、内外壁が崩れ落ち、周辺を歩く事も、中へ入る事さえも出来ない状態です。しかし、

殆どのスタッフが残ってくれ、一人でも多くの地域の皆様に温かい食べ物をと、弁当の販売を始めました。食材調達が困難なこの状況の中、自分の家族も省みず、頑張ってくれる姿に改めて感心し、感謝しています。

この物理的、精神的困難を思いを一つにして、まさかの坂を登りきり、来年の今頃は、皆が笑顔でいることができますように祈っております。

よみがえれ福島

伊東 英子



先日、友人  
から明治の写  
真集を貸して  
ほしいと頼ま  
れました。そ

の中に伊東弁当部の写真が入っていた記憶があつたので、私が「持っているかもしれない」と電話を下さつたこの事でした。この事がきっかけで思いがけなくも明治の頃の福島の様子に触れる事ができました。

福島市が近郷近在と共に蚕糸業で輸出を中心に繁栄を極めたこと。それは日本銀行が支店を全国で二番目に福島に作った事でも明らかでした。東京駅

を設計した辰野金吾先生の設計による建物は、子供の私の目にも素晴らしい建造物でした。気候も良く天災が少ない地は東北で屈指の経済都市だったようです。

紆余曲折を経て時代の流れで、現在は変革を余儀なくされております。でもその中でも想像もできないような遭遇もあります。

可哀想なフクシマとして世界中に発信されている今、各々に素晴らしい歴史と文化を持つ、中通り地方、会津地方、そして浜通り地方と一緒に力を合せて、大きく羽ばたく一つの契機となつて欲しいと思います。

「よみがえれ福島」と、いま私は心から願っております。

自然を慈しむ心を忘れずに

Tiare ティアレ 斎藤まゆみ



震災直後  
は、こんな大  
変な時にお花  
など必要とす  
る方はいない

だろうから、暫くはおとなしくしていよう……と思っていました。  
ところが！生徒さんたちから「お花

に触れて癒されたい。」仲間達に会って気分転換をしたい。」とのメールが次々と送られて来ました。私がお花はお休みしなければ……と思っていた時に、周りは必ずしもそうではなかったのです。震災のショックで落ち込んでいた私でしたが、こうしてはられない！と始動する大きな力を頂きました。

丁度そんな時に、避難所でお花を使ったボランティアをやってみないかとのお話を頂き、これまたその様なところでお花が必要だろうか？と迷いながらも参加しました。すると！開始時間の三十分前から「楽しみにしていたのよ〜！」と待っていて下さる方々がいらつしやつたうえに、老若男女たくさんの方に参加して頂き、「本当に貰っていいの？」「楽しかった！ありがとう。」という言葉をかけて下さり、こちらが元気を頂いたのです。

震災後は、悶々とした気持ちを抱えている方が多く、植物からも癒されたいし、仲間との繋がりも大切にしたい……そんな方が増えているように感じます。

「人間も自然の一部」ということを忘れがちな現代社会ですが、震災によつてその尊さとともにその脅威を身

をもつて知ることとなりました。自然を感じる・自然を慈しむ……そんな心を忘れてはならないのだということ、地球が訴えかけて来たのかもしれない。慌ただしく過ぎていく生活の中で、つい口にしてしまう「忙しい」の一言。

そんな毎日の中にも、きらつと光る感動に繋がる何かが見つくとあるはず……。ただそれに気付くか、気付かず過ぎてしまうかなのでしようね。

四季折々の自然のリズムを五感で感じながら、心豊かに過ごして行きたいものだと思う今日この頃です。

**公開デイスカッション  
福島復興に一步踏み出せ**

福島復興はFJPからと三田会長の熱い想いのパネルデイスカッションが、8月ウエディングエルテイで開催された。

パネリストに全村避難となった飯館村の菅野典雄村長、製造業からデンカイの半澤裕介氏、食品加工業から扇田食品の高橋孝氏、農業から阿部農縁の寺山佐智子氏、観光業からFJPの会員である岳温泉陽日の郷あずま館女将の鈴木美砂子氏を迎え、放射能汚染

**原稿募集**

瀬戸孝子→影山美智子さん→小林志津子さん→小山美和さん→鈴木美砂子さんです。  
宜しくお願いします。

\*原稿締切 2012年2月末日  
—交流広報委員会まで—



による我が福島県の被害現状と解決策について意見を交した。

菅野村長は「長期避難により働く意

欲や自立する気持ちがなえてしまい簡単に解決出来ない」「人が故郷を思う気持ちを生かす事が原点、財源や権限だけだはなく、市町村に幅広く裁量権を与えるべき」との考えを示した。他のパネリストも「県内産の野菜を首都圏に出荷しても中卸し業者が買わない」「放射線量の検査結果を製品に添付しても安心にはつながらない」など、各業界が抱える課題を発表した。いずれにしても故郷や家族、生活の糧を担ってくれた田畑や家畜に対する思いを生かしていくことが復興の原点である。福島県民が根無し草にならない為行政の的確な対応と力の結束を望む。

三田会長は、災害は必ず立ち直る、しかし放射能被害は先が見えない、「福島をこのままで終わらせる訳にいかない、海、山、水、空の美しい故郷を子孫に残す為、ここから本気に生きよう」とデイスカッションを締めくくった。

今回復興支援募金54,852円を戴き有難うございました。FJPからの義捐金と併せて飯館村の子供の為に送らせていただきました。



# ★定例会 Pickup★ 2011年5月～11月

**5月 私の世界戦略**  
(5月24日)



**「100年企業の経営学」**  
「のれん」はその代の者が磨きをかけて次世代へ渡す物  
**末廣酒造(株) 7代目**  
代表取締役 **新城猪之吉氏**

**7月 経営者の心の健康管理**  
(7月5日)



福島県立医科大学  
医学部  
神経精神医学講座  
教授  
**丹羽真一先生**

中高年世代の「うつ」の増加、ストレスをなくすのではなくその原因について考えよう。マイナス思考をプラス思考にし自己評価を高めればできると取り組む

11月5日～6日

## ごちそう満喫フェア ふくしま 2011



ふくしまから元気発信!!  
ふくしまの食の力を大結集!



生き生きとした笑顔を見せた子ども達がたくさん集まりました。

### ● 会員募集 ●

FJPでは、女性ならではの感性を研ぎ澄まし、時代を見すえた情報を受・発信に取り組んで参ります。新しい仲間の入会を心よりお待ちしております。  
・入会についてのお問い合わせ、お申込みは  
TEL (024) 524-3232  
FAX (024) 524-3434  
(有)あり 横山ひろ子  
mail: fjpsoinu@hotmail.com

### ◆ 休会から復帰会員 ◆

影山美智子さん  
影山さん待っていました。これからもよろしく。



### ● 新入会員

母の家建築設計事務所  
代表取締役 **山田 直美さん**  
陽日の郷あずま館  
女 将 **鈴木美砂子さん**  
東北環境センター  
代表取締役 **瀬戸 孝子さん**

### ● 庶事連絡

☆三月十一日の原発事故により、前会長川崎葉子さん、富沢千里さんが避難され福島を離れました、お二人の無念の意思を無駄にせずFJPは福島の復興に向けて活動します  
☆本田タツイさん 休会・復帰を待っていますね。



川崎葉子さん



本田タツイさん

### ● 編集後記

震災から思いが変わった、ふくしまに子ども達を残そう。  
自分の故郷は自分の手で自然ゆたかな福島を取り戻そうよ。  
R・Y